

令和7年度（2025年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

【C日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の趣旨

問題1

問題1は、刑法総論および各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。具体例を設定させるのは、適切な具体例の設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、不真正不作為犯を処罰する際の第一条件たる作為義務に関する基本的な理解を問うものである。特に近時議論が多い排他的支配の要素を中心とした作為義務の発生根拠論が正しく理解できているかを確認する。(2)は、令和5年の司法試験論文式問題でも出題された「公務」と「業務」の区別に関する基本的理解を問うものであり、多数説たる限定積極説とそれに対するアンチテーゼである修正積極説の内容が正しく表現しているかを確認する。

問題2

問題2は、刑法総論上の典型論点である、行為者自身の行為による介在事情と因果関係と、刑法各論上の典型論点である一般開放建造物への違法目的を隠した侵入を組み合わせた事例問題である。前者については、特に死の結果をどちらの行為に帰属させるかを解答者が正しく意識できているかを問うている。後者については、住居等侵入罪の保護法益につき住居権説に立てば容易に建造物侵入罪の成立を認め得るが、学説からはそれでは現行法上不可罰な窃盗予備を処罰するに等しいという批判が向けられている。ましてや、スーパーという本来誰もが自由に立ち入ることができる施設において、犯罪意思を表出する行為を行うことなく立ち去った者に建造物侵入罪を認める必要があるか、という問題意識に、解答者がどのように向き合い事案を解決するかを確認する。